



Profile

東京大学理学部物理学卒業。同大学院理学系研究科博士課程修了(理学博士)後、同大医学部助手、ハーバード大学医学部リサーチフェロー、マサチューセッツ工科大学言語・哲学科客員研究員を経て、東京大学大学院総合文化研究科教授。脳科学の著書多数。

●自著を語る ● BOOK

『脳でわかるサイエンス③
脳の冒険』

文：酒井邦嘉 絵：山田和明
明治書院 1575円
☎03-5292-0117



東京大学教授

酒井邦嘉 / Kuniyoshi Sakai

子どもと一緒に考えてみよう、
脳の働きと不思議

人はなぜ言葉を話すのか

私たちは、会話をしたり、読んだり書いたりしながら日々たくさんの方の言葉を使い、また受け取っています。その言葉がうまく相手に伝わらずもどかしい思いをしたり、誤解が生じて悲しい思いをしたりすることがあります。時には言葉で人を傷つけたり傷つけられたりもします。

身近な「なぜ？」を、子どもと考えるために生まれたのが、絵と文による「脳でわかるサイエンスシリーズ」です。既刊の『①ことばの冒険』『②ことばの冒険』、そして最新刊の本書『③脳の冒険』で完結です。

普段何げなく使っている「言葉」ですが、言葉は「心」から生まれます。さらに、言葉と心の基礎にあるのが「脳」です。つまり、脳の働きによって、私たちは心を言葉にして人に伝えることができ、同時に言葉を受け取った人は、話した人の心を想像しているのです。

子どものころから、こうした

一連のつながりを知っておけば、友達や家族の間でも、互いの心に思いをはせ、どうしたら分かり合えるかを考え、努力するようになるはず。

心を育てることが賢い脳を創る

効率が重んじられる現代では、手取り早く頭が良くなる方法や、成績を上げるためのテクニックなどがもてはやされます。しかし、脳の働きが発揮される

には常に「心」が関与します。心を育てることが、脳を育てることにほかなりません。大人がまずそのことを認識し、子どもの心を育てるためのサポートをしてほしいと思います。

読書は会話や映像以上に想像をかき立てるので、心を豊かにし、脳を育てる上でとても大切です。音楽や絵画などの芸術は、言葉では語れないニュアンスを心に感じ取らせてくれます。自然に触れたり体験することも同じです。五感で体験し考えることに無駄なものはありません。脳は、それらを記憶し、また過

去に記憶したことを取り出しながらどんどん育っていきます。

効率偏重では脳は育たない

目には見えませんが、脳が育つと、言葉から想像できる世界が広がるので、人の心がよく分かるようになります。人の心に合った適切な言葉を使えるようになり、たとえ短い言葉でも心が人に伝わりやすくなります。

効率を重んじる電子化の波は子どもたちの間にも広がっています。早い時期から目先の便利な情報に慣れ過ぎると、心に意識を向ける機会を逸してしまいかねません。自分の心で受け取ったことや覚えたことを時間をかけてじっくり考えることで脳の再構築が促され、賢い脳になることを忘れないでください。

賢い脳とは、少ない情報からいかに多くのことを想像できるか、ともいえます。本書の絵と文には脳科学の最新メッセージがたくさん詰まっています。想像力を働かせながら読み取ってもらえますように。